

株式会社ヨータイ

2026年3月期

# 決算説明資料

2026年5月29日

東証プライム：5357

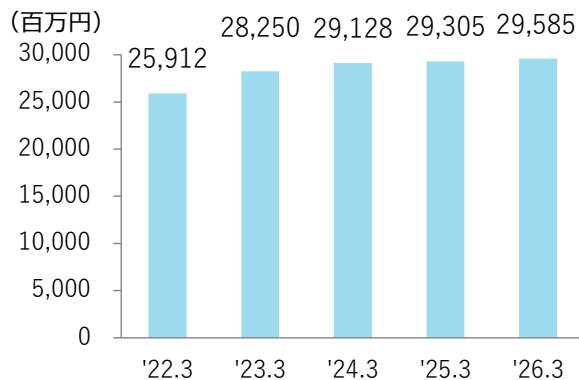
# 2026年3月期連結決算概要

- ガラス、セメント、非鉄金属向けの受注増により売上高は前期比1.0%の増収となり過去最高を更新
- 原燃料費の高止まりなどがあったものの、価格改定および生産量の増加により、経常利益は前期比3.6%の増益
- 公開買付関連費用の計上などにより、当期純利益は前期比5.8%の減益

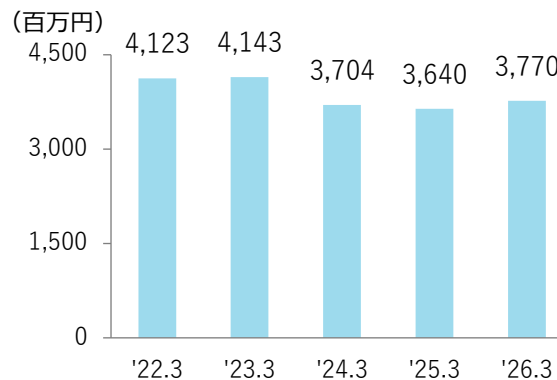
(百万円)

	2025.3期	2026.3期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	29,305	<b>29,585</b>	+279	+1.0%
営業利益 (売上高営業利益率)	3,484 (11.9%)	<b>3,595</b> (12.2%)	+111	+3.2%
経常利益 (売上高経常利益率)	3,640 (12.4%)	<b>3,770</b> (12.7%)	+130	+3.6%
親会社株主に帰属する当期純利益 (売上高当期純利益率)	2,623 (9.0%)	<b>2,469</b> (8.3%)	▲153	▲5.8%

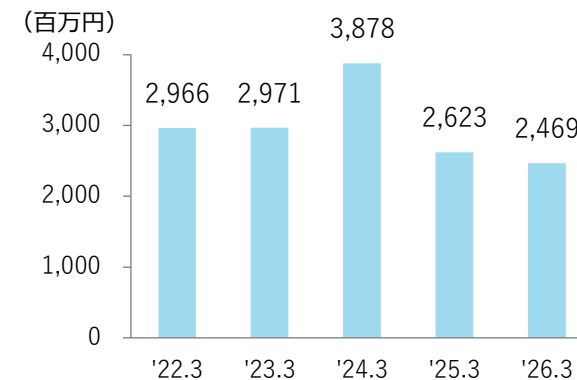
### 売上高



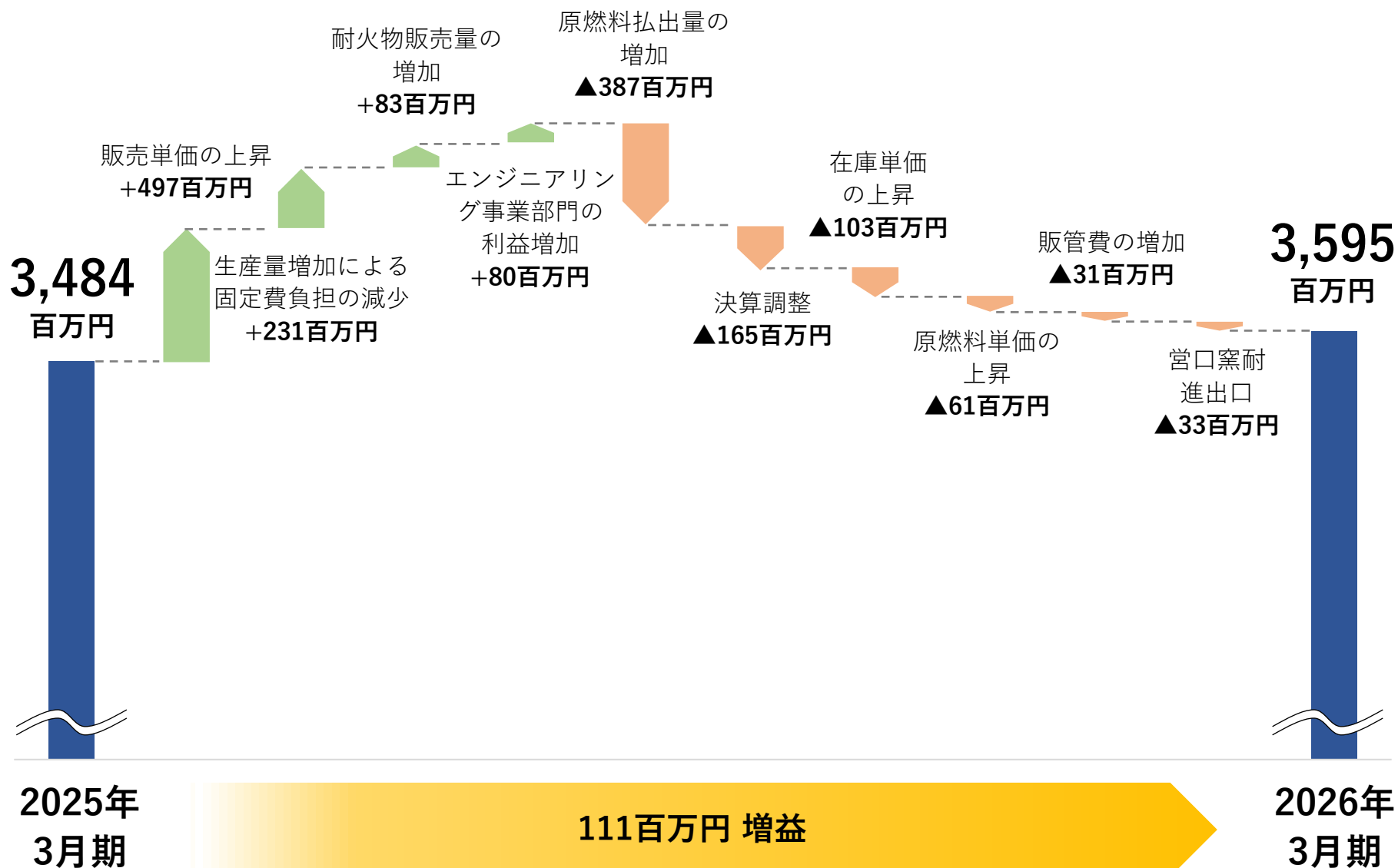
### 経常利益



### 親会社株主に帰属する当期純利益

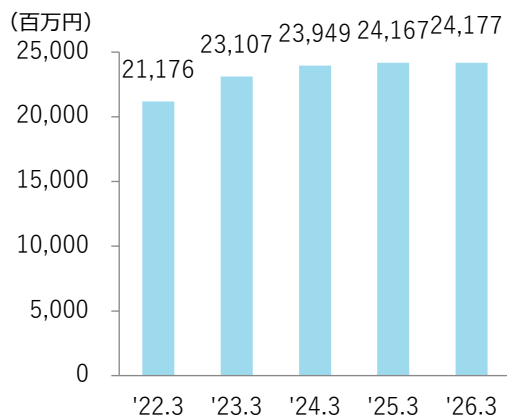


# 連結営業利益増減要因分析（前期比）

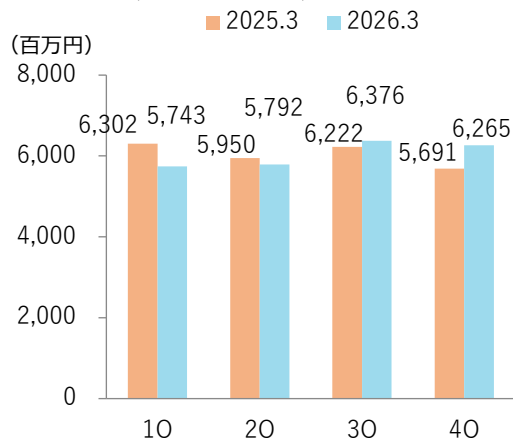


## 売上高は前期並みの24,177百万円、セグメント利益は前期比0.7%増の4,757百万円

### 売上高



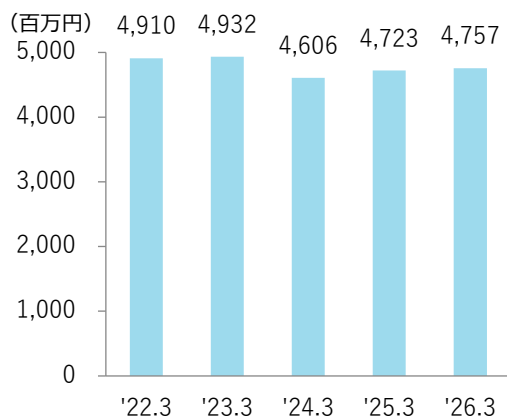
### 売上高 (四半期ごと)



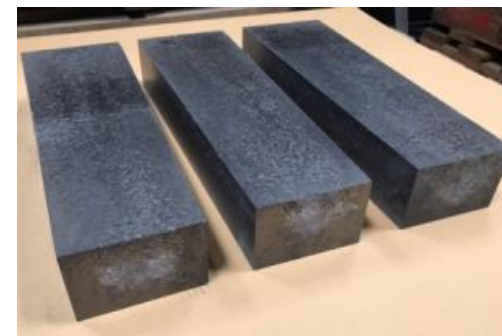
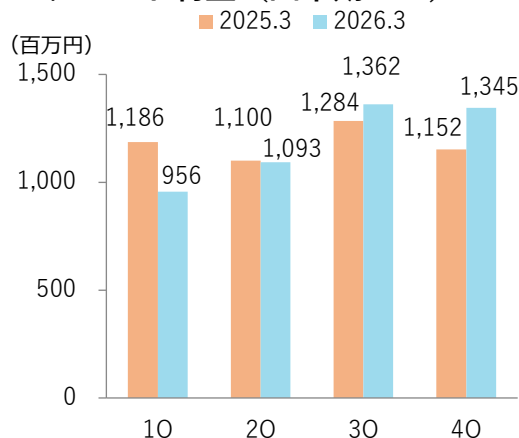
### 当期のハイライト

- 鉄鋼：生産量減少の影響を受け受注は微減
- セメント：定期修繕によって安定した受注を確保
- 非鉄金属：大型案件の受注が増加
- 窯業：前期の大型案件の反動減により減少
- ガラス：大型案件の受注が増加
- 海外：非鉄金属向けの受注が減少したものの、ガラス向け、電子部品向けが微増
- 価格改定および生産量の増加により増益

### セグメント利益



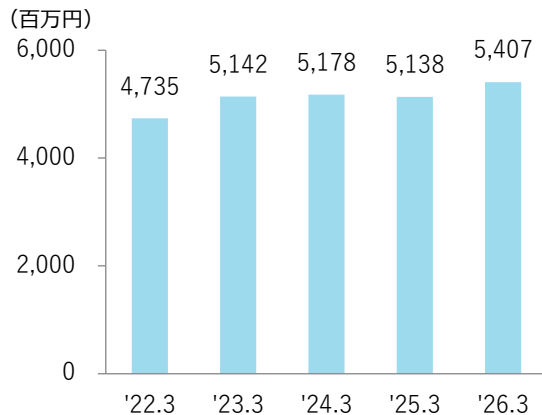
### セグメント利益 (四半期ごと)



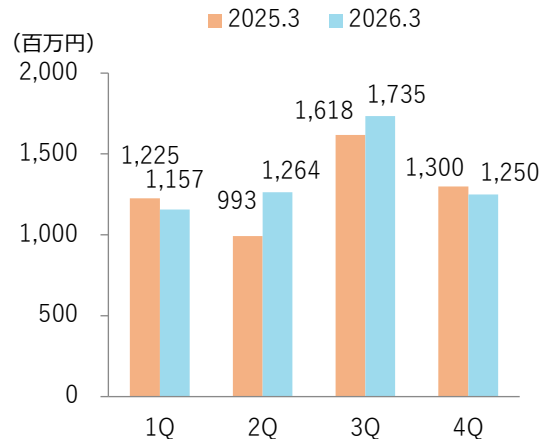
マグカーボンレンガ

## 売上高は前期比5.2%増の5,407百万円、 セグメント利益は前期比11.2%増の796百万円

### 売上高



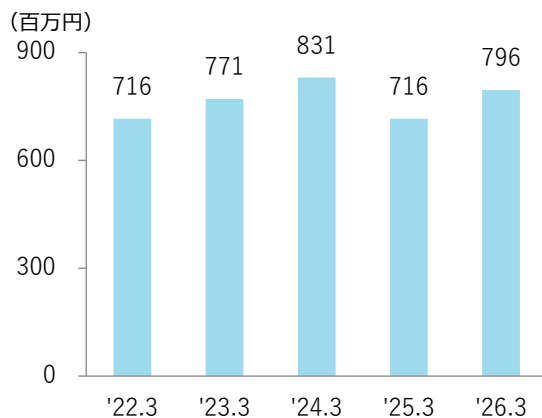
### 売上高 (四半期ごと)



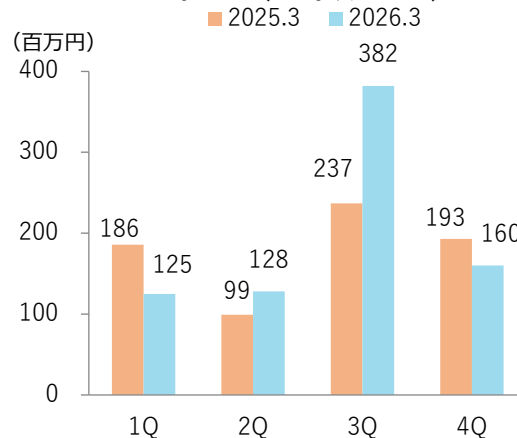
### 当期のハイライト

- 非鉄金属、環境装置向け大型案件の受注により増収（過去最高を記録）、利益率も向上
- 顧客対応強化のため、計画的に人員を増強

### セグメント利益



### セグメント利益 (四半期ごと)



取鍋の施工

# 連結貸借対照表

(百万円)

	2025.3期	2026.3期	増減	主な増減要因
流動資産	29,584	<b>29,711</b>	+126	受取手形及び売掛金 +837 現金及び預金 ▲663 原材料及び貯蔵品 ▲103
固定資産	11,794	<b>12,522</b>	+727	投資有価証券 +745
<b>総資産</b>	<b>41,379</b>	<b>42,234</b>	<b>+854</b>	
流動負債	6,707	<b>6,004</b>	<b>▲702</b>	電子記録債務 ▲551 買掛金 ▲299 未払法人税等 +77
固定負債	1,722	<b>1,803</b>	+81	繰延税金負債 +189 長期借入金 ▲170
負債合計	8,430	<b>7,808</b>	<b>▲621</b>	
純資産合計	32,948	<b>34,425</b>	+1,476	利益剰余金 +810 その他有価証券評価差額金 +505
<b>負債・純資産合計</b>	<b>41,379</b>	<b>42,234</b>	<b>+854</b>	
<b>自己資本比率</b>	79.6%	<b>81.5%</b>	+1.9pts	
<b>ROE (自己資本当期純利益率)</b>	8.0%	<b>7.3%</b>	<b>▲0.7pts</b>	公開買付関連費用の計上により低下 (公開買付関連費用を除くと8.1%)

# 連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

	2025.3期	2026.3期	当期の主な内容
営業活動による キャッシュ・フロー	4,431	2,500	税金等調整前当期純利益 +3,439 減価償却費 +1,422 売上債権の増加 ▲900 仕入債務の減少 ▲784
投資活動による キャッシュ・フロー	▲2,245	▲1,491	有形固定資産の取得による支出 ▲1,420 無形固定資産の取得による支出 ▲66 投資有価証券の売却による収入 +31
財務活動による キャッシュ・フロー	▲2,263	▲1,689	配当金の支払額 ▲1,654 長期借入金の返済による支出 ▲141 自己株式の処分による収入 +13
現金及び現金同等物に 係る換算差額	30	17	
現金及び現金同等物の 増減額	▲47	▲663	
現金及び現金同等物の 期末残高	6,412	5,748	

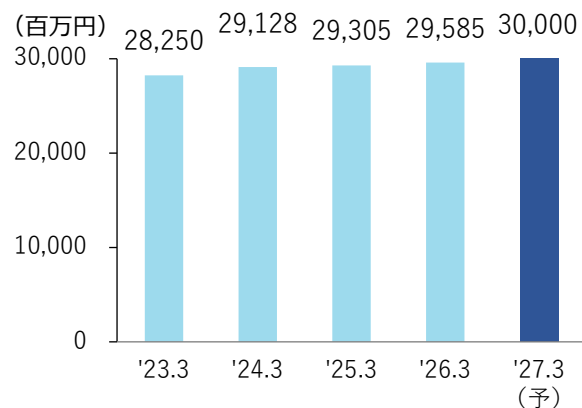
# 2027年3月期連結業績予想

- 積極的な海外展開および国内での非鉄金属向け大型案件等の受注を想定し、売上高は前期比1.4%の増収、経常利益は同3.4%の増益を計画
- 中東問題の影響は業績予想に織り込まず。しかしながら中東問題を含む地政学的リスクの高まり、為替の変動、粗鋼生産量の動向には注視が必要

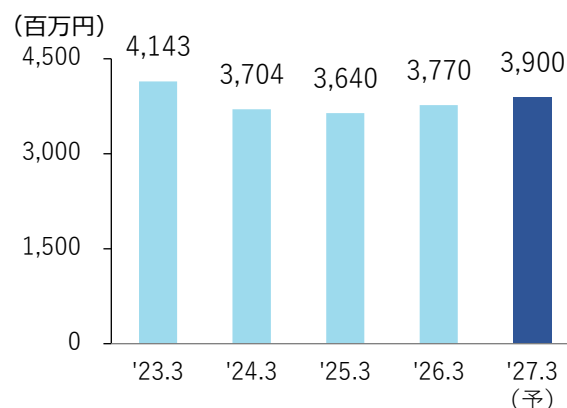
(百万円)

	2026.3期	2027.3期 予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	29,585	30,000	+414	+1.4%
営業利益 (売上高営業利益率)	3,595 (12.2%)	3,800 (12.7%)	+204	+5.7%
経常利益 (売上高経常利益率)	3,770 (12.7%)	3,900 (13.0%)	+129	+3.4%
親会社株主に帰属する当期純利益 (売上高当期純利益率)	2,469 (8.3%)	2,600 (8.7%)	+130	+5.3%

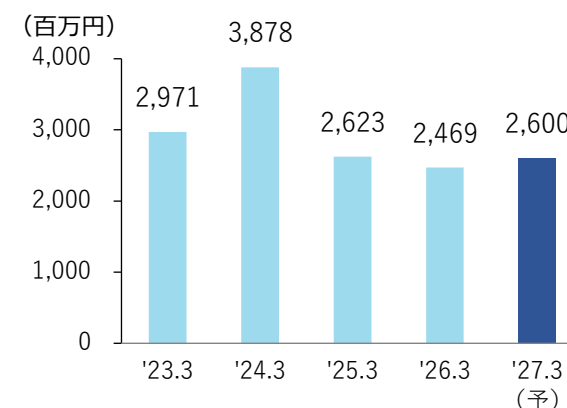
売上高



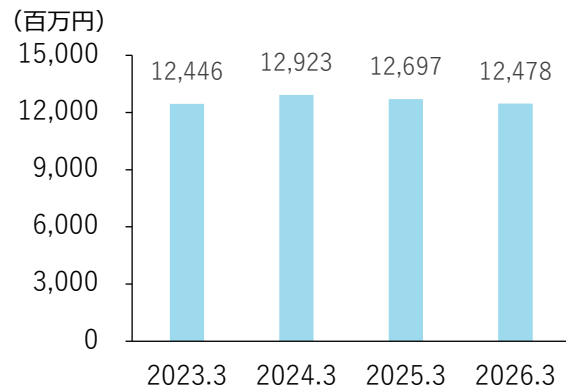
経常利益



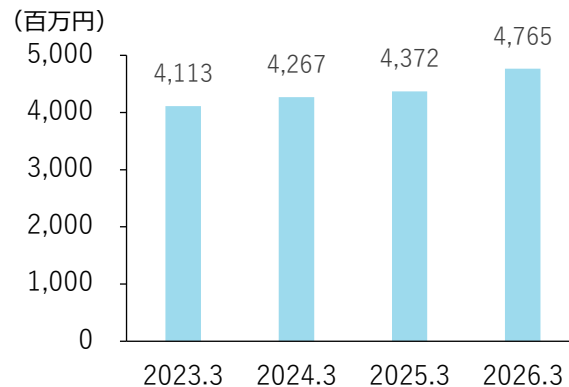
親会社株主に帰属する当期純利益



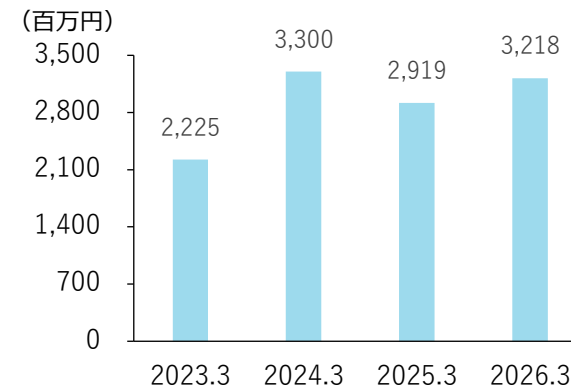
## 鉄鋼



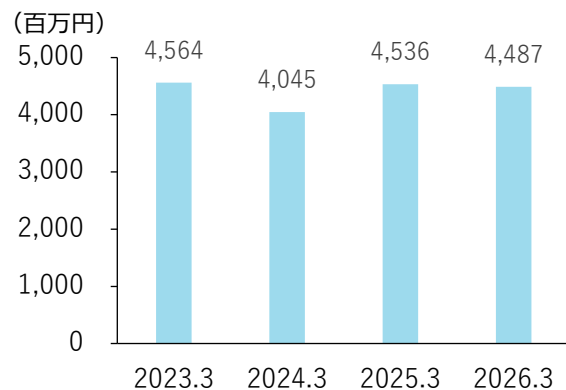
## セメント



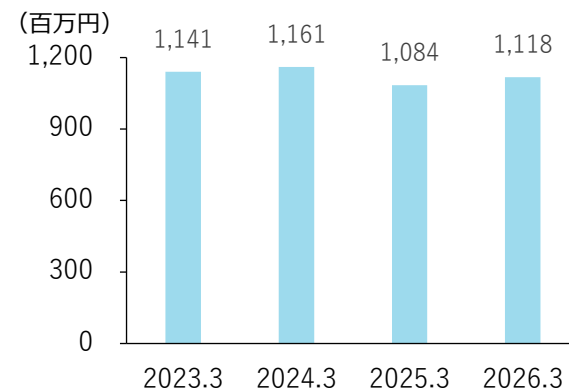
## 非鉄金属



## 環境装置



## 電子部品



	26.3期 実績	27.3期 見通し
鉄鋼	→	→
セメント	↗	↗
非鉄金属	↗	→
環境装置	→	→
電子部品	→	→

※2025.3より、決算調整後の業種別売上数値に変更しております。

# 第二次中期経営計画の進捗と 今後の戦略

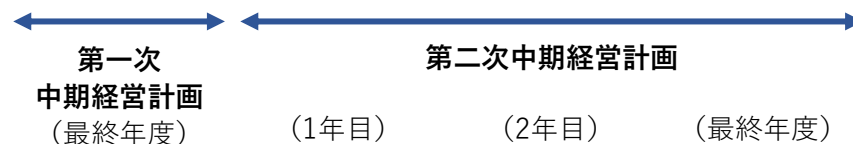
中長期の飛躍を目指して2030年ビジョンを新たに制定  
第二次中期経営計画で投資効果の拡大を図り、2030年に投資効果の最大化を目指す

目指す企業像

収益力の維持とESG経営の推進により、財務価値・非財務価値を高め、  
社会と調和し、持続的に企業価値を向上し続ける企業へ



# 第二次中期経営計画の数値目標



	第一次 中期経営計画 (最終年度)			第二次中期経営計画			
	2024.3期 実績	2025.3期 実績	2026.3期 実績	(1年目)	(2年目)	(最終年度)	(百万円)
				2027.3期			
				目標	予想	目標から の増減額	目標から の増減率
売上高	29,128	29,305	<b>29,585</b>	<b>32,000</b>	<b>30,000</b>	▲2,000	▲6.3%
営業利益 (売上高営業利益率)	3,602 (12.4%)	3,484 (11.9%)	<b>3,595</b> (12.2%)	<b>4,400</b> (13.8%)	<b>3,800</b> (12.7%)	▲600	▲13.6%
経常利益 (売上高経常利益率)	3,704 (12.7%)	3,640 (12.4%)	<b>3,770</b> (12.7%)	<b>4,500</b> (14.1%)	<b>3,900</b> (13.0%)	▲600	▲13.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (売上高当期純利益率)	※ 2,669 (9.2%)	2,623 (9.0%)	<b>2,469</b> (8.3%)	<b>3,200</b> (10.0%)	<b>2,600</b> (8.7%)	▲600	▲18.8%
ROE	※ 8.6%	8.0%	<b>7.3%</b>	<b>10.0%以上</b>	—	—	—
連結配当性向	41.4%	63.5%	<b>67.0%</b>	<b>60.0%</b>	<b>63.8%</b>	—	—

※連結子会社 宮口新窯耐の持分譲渡、政策保有株式縮減による特別利益の計上を除いた数値

## 第二次中期経営計画（2024年度-2026年度）

「目指す企業像」の実現に向けて**継続的な体制づくり**と**新たな収益源の育成**を行う期間

## 基本戦略・重点施策

引き続き、**ヒト・モノ・情報への投資**を行い、投資効果の最大化を図りながら、  
環境変化に対応して**収益力の強化・収益源の多様化**を図る

### 収益力の強化・収益源の多様化

1

#### 製品・サービスの質の向上による売上拡大

##### 製品

- 新製品の販売拡大、成長分野のニーズ取り込み

##### 技術営業

- 技術営業員の採用・育成の継続と建設業2024年問題への対応

##### 顧客対応

- 拡充した営業拠点の活用ときめ細かい営業対応

2

#### 低コスト・安定供給体制の強化

##### 原料調達

- 安定的・持続的な原料備蓄と国内生産の強化

##### 合理化・効率化

- 継続的な生産体制強化による合理化・効率化の推進
- 経営戦略の実現に資するDXの推進

3

#### 新たな収益源の育成

##### 開発体制

- さらなる研究開発体制の強化と新製品開発の推進

##### 海外展開

- 展開エリアの検討と基盤づくり
- 海外OEM品の活用

### ESG経営の推進

4

#### ESG経営の推進

##### E：環境

- GHG排出量削減に向けた設備の導入と技術革新

##### S：社会

- 従業員の多様性の向上とはたらきやすい職場づくり

##### G：ガバナンス

- 持続的な成長に資するガバナンス体制の強化

## お客様からの要望が多い新製品を開発



### セメントロータリーキルン 遷移帯不焼成スピネルれんが

(業種：セメント)

焼成れんがと比べて製造時に排出されるCO<sub>2</sub>量を抑制



### 大型棚板

(業種：窯業)

大型サイズに対応でき、優れた耐ベンド特性で省エネにつながる



### 軽量・高耐クリープ電融ムライト質 炉体れんが

(業種：窯業)

軽量性と耐クリープ性に優れ、低熱伝導率・低熱膨張率の特性を有し、熱ロスを削減



### 多孔質アルミナシート

(業種：電子部品)

高气孔率によるスムーズな脱脂と滑らかな表面により、お客様製品の歩留まり向上に貢献

## 高機能セラミックス展への初出展（2025年11月）



2026年9月30日から10月2日まで開催される、高機能セラミックスにも出展予定

## Hasle Refractories社との日本国内における総代理店 契約に関する基本合意（2026年1月）

### 主力製品

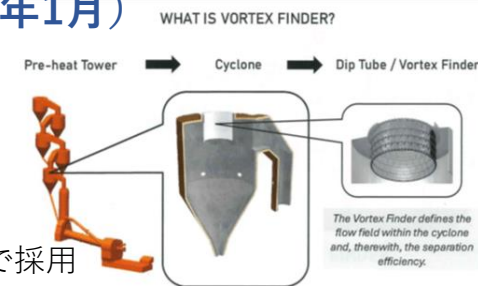
- 内筒向けセラミックス

### 実績

- 海外で多数の採用実績あり
- 国内セメントメーカーでも既に一部で採用

### 期待される効果

- 従来の鋳造品からの置き換えにより、コスト低減、施工性と安全性の向上が期待される



## 営業体制の強化（国内・海外）

国内営業・海外営業の責任と権限を明確化して営業活動の強化を図る

# ②低コスト・安定供給体制の強化(1)

## 設備投資による生産体制の強化

継続的に大型・高効率プレス機を各工場に導入し製品品質と生産性を強化



### 主な取り組み

最新の粉碎混練設備を導入し、混練工程の生産性向上を推進

- **日生工場**：原料タンクと高速ミキサーの追加により、高効率生産と工数削減を推進
- **瑞浪工場**：特殊粉碎機の導入により自社粉碎に取り組み、品質向上とコスト削減を推進

大型プレス機・高効率プレス機を各工場に導入し、生産性と品質の向上を推進

6台

設備導入済み

2台

追加導入予定

- **瑞浪工場**：1,500Tプレス機導入（2026年6月予定）
- **吉永工場**：1,000Tプレス機導入（2026年11月予定）

重油から天然ガスへの燃料転換によりGHG排出量の削減を推進

- **貝塚工場**：従来より天然ガスを使用
- **吉永工場**：天然ガスへの燃料転換と省エネ化（2026年11月予定）
- **日生工場**：トンネルキルンの省エネ化（2026年12月予定）
- **瑞浪工場**：吉永工場に続き、天然ガスへの燃料転換を予定
- 将来的には水素燃料への転換も見込む

AIを活用した後工程の自動化を推進

- **貝塚工場**：自動選別ラインを導入
- **日生工場**：選別自動梱包機を導入予定

CLO（物流統括管理者）、物流統括室の設置

- **全社**：サプライチェーンにおける物流体制の最適化や持続可能な物流網の構築・維持等の観点から、CLOおよび物流統括室を設置し、全社の物流の効率化を図る
- **瑞浪工場**：倉庫管理のDX化

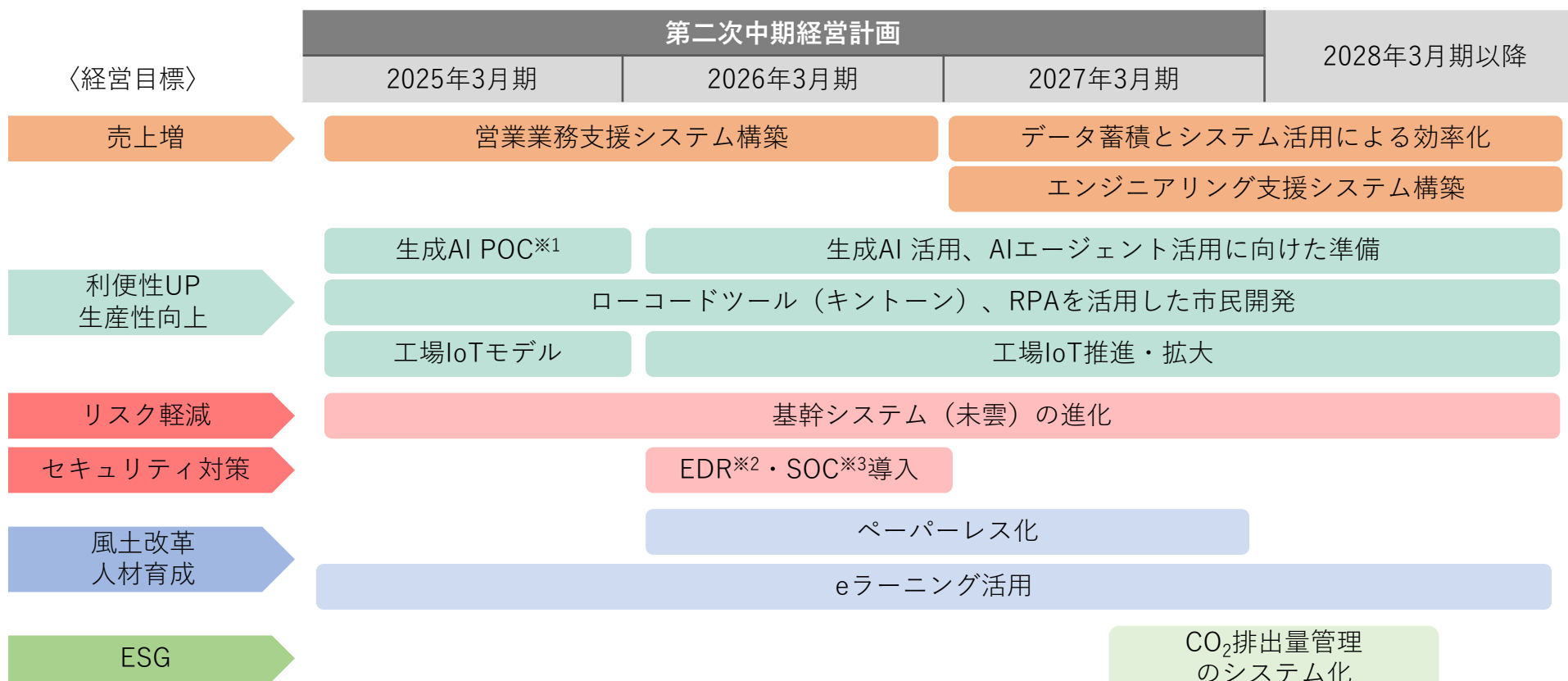
## ②低コスト・安定供給体制の強化(2)

## 経営戦略の実現に資するDX推進

DXロードマップを策定し、具体的な取り組み事項に落とし込んで推進

2025年4月よりCIO（最高情報責任者）を設置し、DX推進を加速

また、セキュリティ対策強化のために専門資格保有者（情報処理安全確保支援士2名）を配置

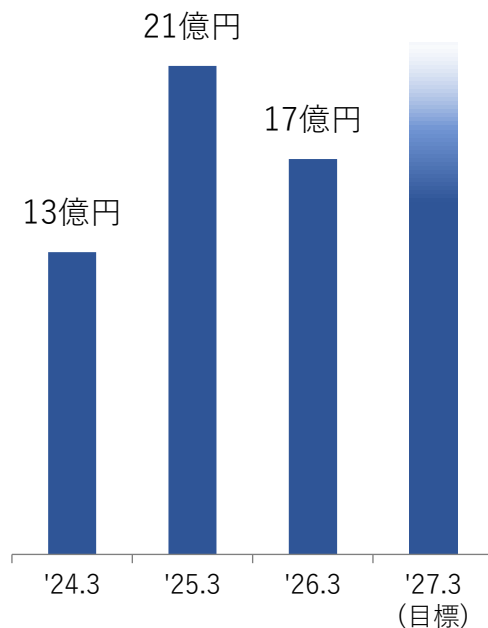


※1 POC：概念実証（小さく試して効果を確認する） ※2 EDR：端末のふるまい検知 ※3 SOC：セキュリティ監視センター

# ③新たな収益源の育成（海外展開）

鉄鋼、セメント、電子部品を中心に、当社が強みを持つ分野で地域のニーズにあわせた展開を図る

## 海外売上高



インド

セメント会社から受注を獲得し、窯業業界にも営業活動を展開



韓国

セメント、石灰業界に営業活動を展開



インドネシア

非鉄金属メーカーから受注を獲得・さらなる受注活動を推進

築炉会社とのタイアップにより各社向け拡販を推進



タイ

化学メーカーから受注を獲得



## 営業体制の強化（国内・海外）

国内営業・海外営業の責任と権限を明確化して営業活動の強化を図る

# ④ ESG経営の推進 (1)

## E : GHG排出量削減に向けた設備の導入と技術革新

太陽光発電設備を継続的に導入し、再生可能エネルギーの利用を促進  
さらに、重油から天然ガスへの燃料転換により、GHG排出量の削減を推進

重油から天然ガスへの  
燃料転換  
(2026年11月予定)



**吉永工場 (第一製造所)**  
2023年8月稼働・2024年12月稼働、  
2026年1月稼働・2026年5月稼働  
発電量：716kW



**日生工場 (西工場・東工場)**  
2023年12月稼働・2024年12月稼働  
発電量：1,171kW



**瑞浪工場**  
2022年11月稼働・  
2025年1月稼働  
発電量：1,206kW

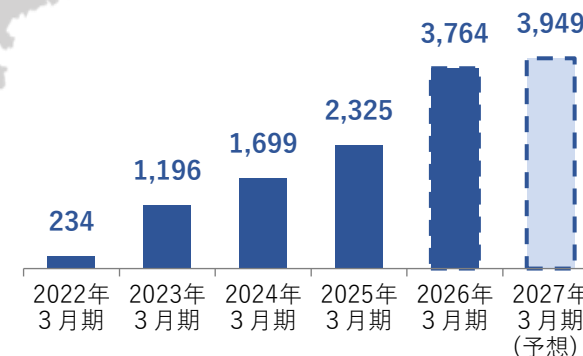


**吉永工場 (第二製造所)**  
2021年6月稼働  
発電量：150kW



**貝塚工場**  
2022年2月稼働  
発電量：748kW

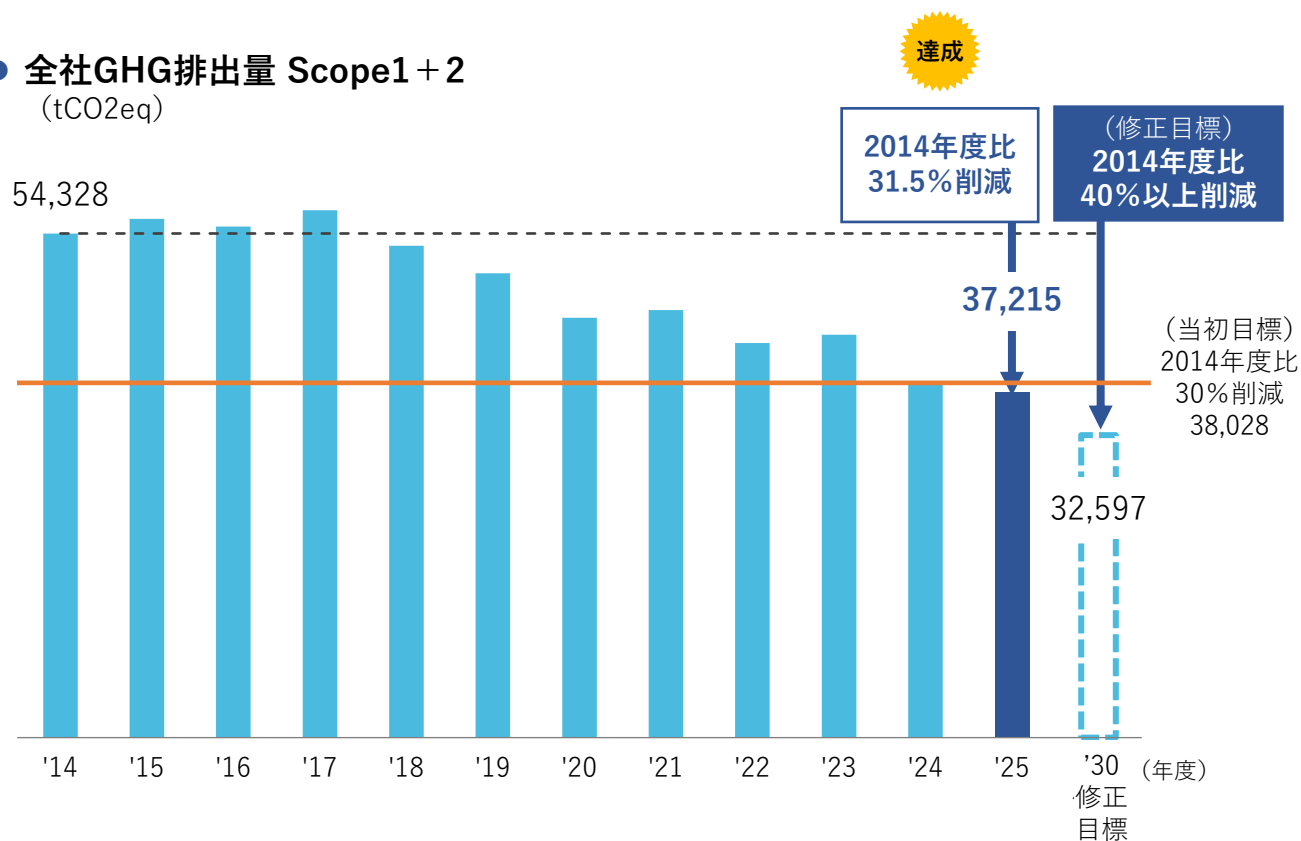
当社の太陽光発電設備発電量 (MWh)



## E : Scope1 + 2のGHG排出量の開示

2025年度において、2014年度を基準年とする2030年度のScope1 + 2排出量30%削減目標を達成  
 これにより、2030年度目標を40%以上に引き上げ

### ● 全社GHG排出量 Scope1 + 2 (tCO2eq)



※2023年度以前のGHG排出量の数値については、算定方法をより精緻化したため、数値が変更になっております。

## 2025年度 Scope1 + 2 算定結果

- 継続的な太陽光発電設備の導入により、2014年度を基準年とした2030年度目標を前倒しで達成 (31.5%削減)
- さらに、使用電力に占める再生可能エネルギーの割合も30.5%となり、目標としていた30%以上を達成
- 重油から天然ガスへの燃料転換により、GHG排出量の削減を推進し、2030年度目標を2014年度比40%以上削減に上方修正する
- 30%削減目標の達成により、SBT認証取得に向けた取り組みも検討

## S：従業員の多様性の向上とはたらきやすい職場づくり

### 少数精鋭の人財を活かす人的資本経営

情熱をもって仕事に取り組む人材が報われる組織づくり・職場環境づくりを推進

- **エンゲージメントサーベイの実施** (2022年3月期より)

2024年度 評点59.4点 → 2025年度 評点60.6点

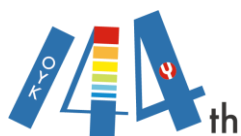


エンゲージメントサーベイ発表会の様子

- **資格取得の推進**
- **設立90周年イベントの実施**



設立90周年ロゴ



大阪窯業創業144周年ロゴ

スキルアップ支援  
と挑戦する  
風土の醸成  
社員のスキルアップ  
と意欲向上

個人の成長を  
会社の成長に  
つなげる仕組  
みづくり

働きやすい  
職場づくり  
設備投資などの  
ハード面の整備

働きやすい  
制度づくり  
制度などの  
ソフト面の整備



- **岡山事業所 吉永工場  
新食堂・倉庫建設**  
(2026年4月完成)

- **技術研究所・エンジニアリング  
事業部の事務所建替え**  
(2027年3月完成予定)



- **勤務地域限定総合職制度の運用開始**  
(2026年4月～)  
九州支社 女性1名、岡山事業所 吉永工場 男性2名
- **奨学金補助（代理返還）制度の導入**  
(2026年4月～)  
2026年4月時点 利用者16名
- **健康経営の推進と  
社員への浸透**



健康経営推進セミナーの様子

# 投資スケジュールと進捗状況

準備期間

本稼働

		2025年3月期		2026年3月期		2027年3月期	
		上期	下期	上期	下期	上期	下期
<b>● ヒト</b>							
採用	積極的なキャリア人材の採用						
育成	階層別・職種別研修制度導入						
	eラーニング（オンライン研修）受講の促進						
働き方	高年齢者再雇用・勤務延長制度の改正						
	地域限定社員制度導入						
福利厚生	従業員持株会の活性化						
	継続した健康経営の推進						
<b>●モノ</b>							
自動化設備	大型高圧プレス機、高効率プレス機設置						
	自動選別装置導入						
	異形専用自動プレス改造						
設備効率化	混練プラント改造						
	工場のレイアウト整備						
	原料製造用ロータリーキルン改造						
新製品開発設備	非酸化物生産設備の導入、特殊プレスの新規導入						
築炉工事	施工方法の合理化						
CO <sub>2</sub> 排出削減	太陽光パネルの設置						
	EV車両の継続導入						
	Scope1のエネルギー転換						
<b>●情報</b>							
DX推進	基幹システム（未雲）の継続的な機能強化						
	顧客情報、営業活動情報のデジタル化による新規顧客開拓						
	AI、RPA、ローコードツール活用推進による生産性向上とデジタル人財育成						
	工場のIoT化推進による、ものづくり品質向上と原価低減						
	ファイルサーバーや電子ワークフロー等の導入によるペーパーレス推進						
	サイバーセキュリティ対策の強化						
<b>●その他</b>							
	関連分野でのM&A投資など						

## 投資、株主還元への資金配分を強化

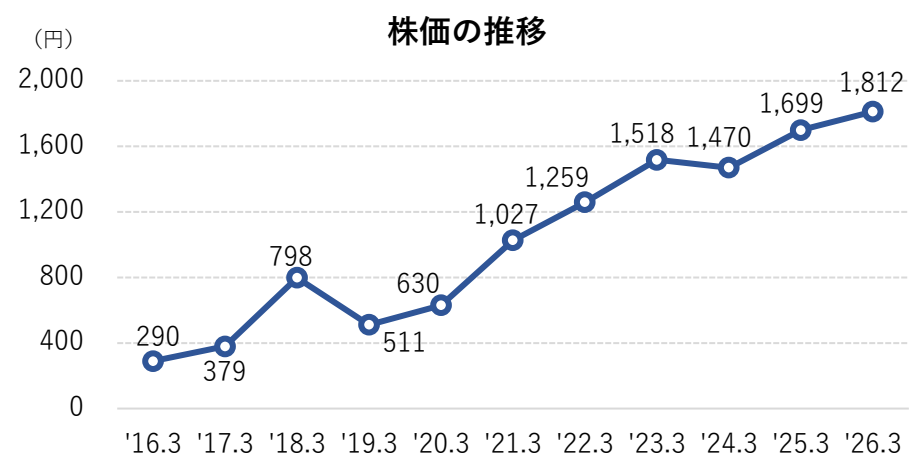
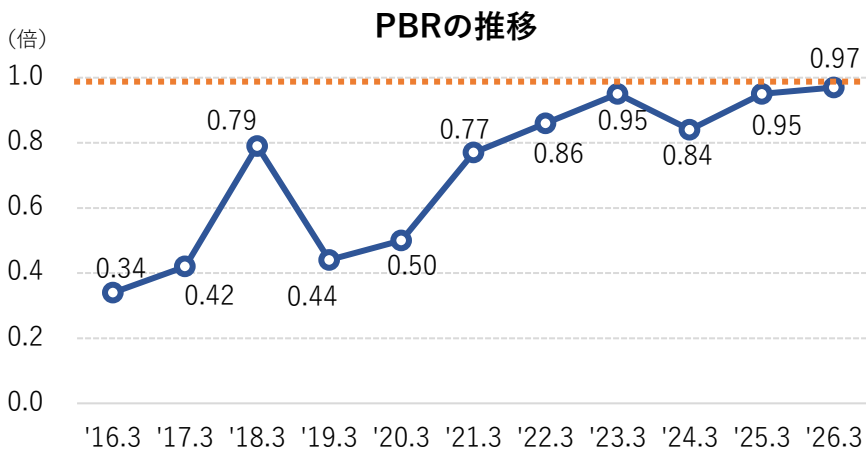
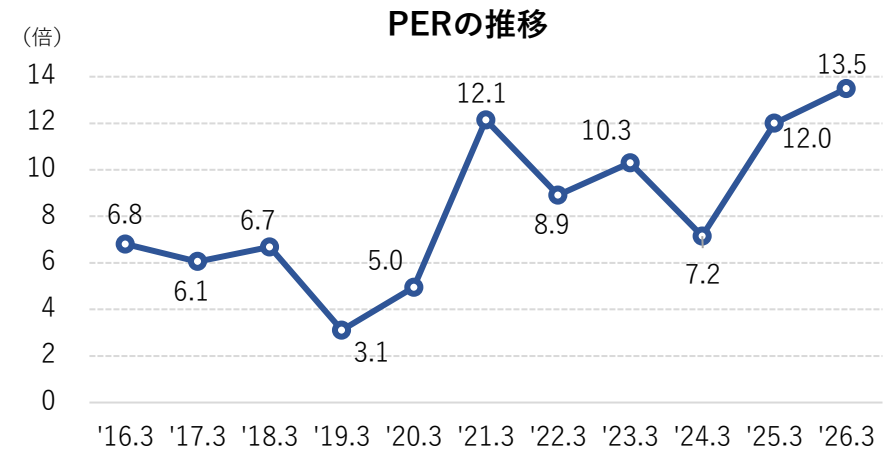
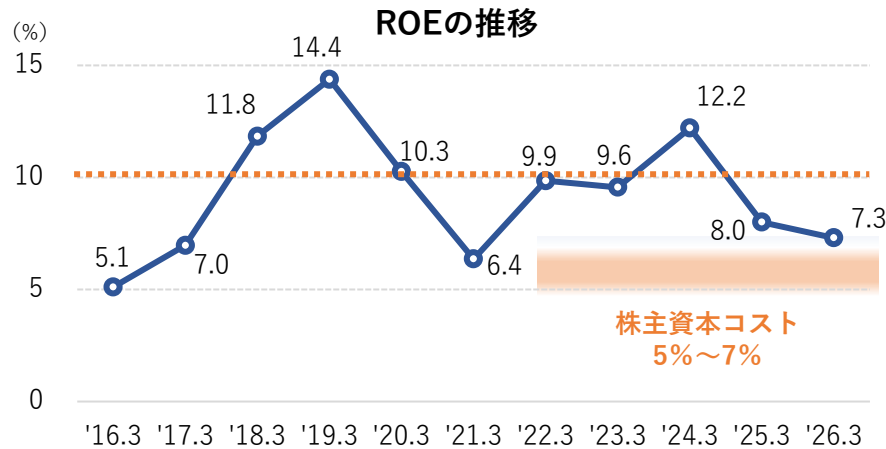
3年間の累計		内容	2025.3期 実績	2026.3期 実績
投資 80億円	更新投資 15億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 合理化、効率化投資</li> </ul>	7億円	4億円
	戦略投資 40億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 戦略的な設備の導入</li> <li>■ 脱炭素投資</li> <li>■ BCP投資</li> </ul>	15億円	9億円
	DX投資 5億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 情報システム投資  <small>今回からサブスクリプション型システム利用料を情報システム投資に含めることとし、25.3期の実績も遡って修正しています。</small> </li> </ul>	1.6億円	1.3億円
	その他 20億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ M&amp;A投資など</li> </ul>	0.1億円	0.1億円
株主還元		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 株主還元を強化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連結配当性向60%あるいは1株当たり配当金85円のいずれか高い方を実施</li> <li>・ 自己株式の取得は財務状況などを総合的に勘案して実施を検討</li> </ul> </li> </ul>	配当性向 63.5%	配当性向 67.0% (予定)

※上記以外の投資についても、内容、金額を精査し、適宜検討していく方針

# 資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について

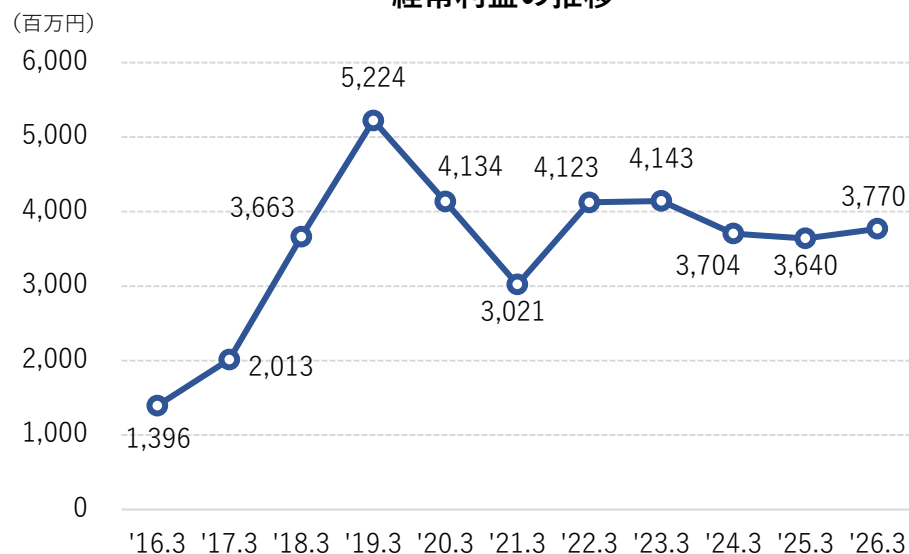
# 現状分析① (ROE・PER・PBR・株価)

- 株主資本コスト：5%～7%程度と認識
- ROE：中計目標10%達成には、投資効果の拡大と収益性向上が課題と認識
- PER：市場からの成長期待の獲得、投資候補としての認知度拡大が課題と認識
- PBR：1倍を超えることもあるものの、2026年3月末時点では0.9倍で推移  
引き続き環境変化に対応した長期視点での経営計画の策定・推進を行う
- 株価：長期的には上昇基調であり、引き続き財務戦略・非財務戦略を確実に遂行していく

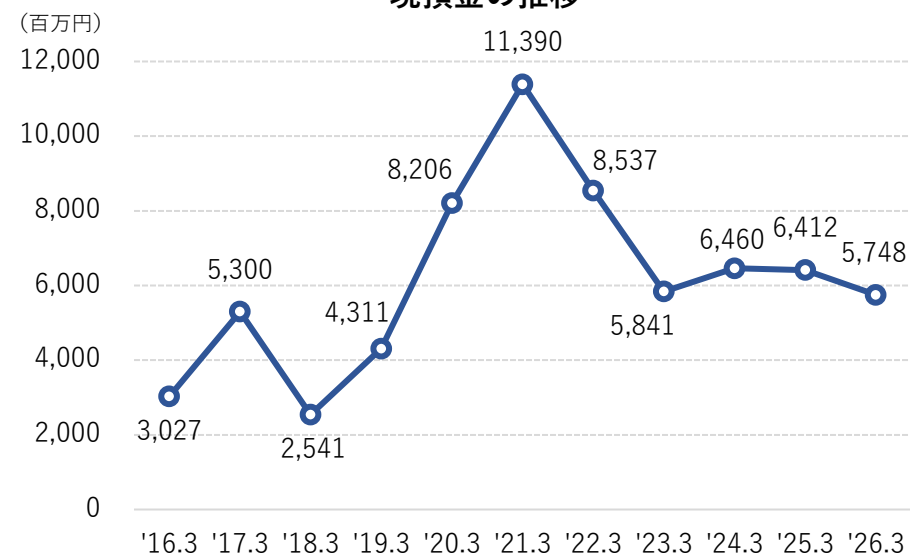


- 業績面では、主要取引先である鉄鋼業界の国内粗鋼生産量、中国原料の価格動向、円安等の影響を受ける。
- 一方で、強固な顧客基盤と財務体質により、安定的に利益を確保できる体制がある。
- 今後も資本コストを意識し、資本効率のさらなる改善・向上に取り組む。

### 経常利益の推移

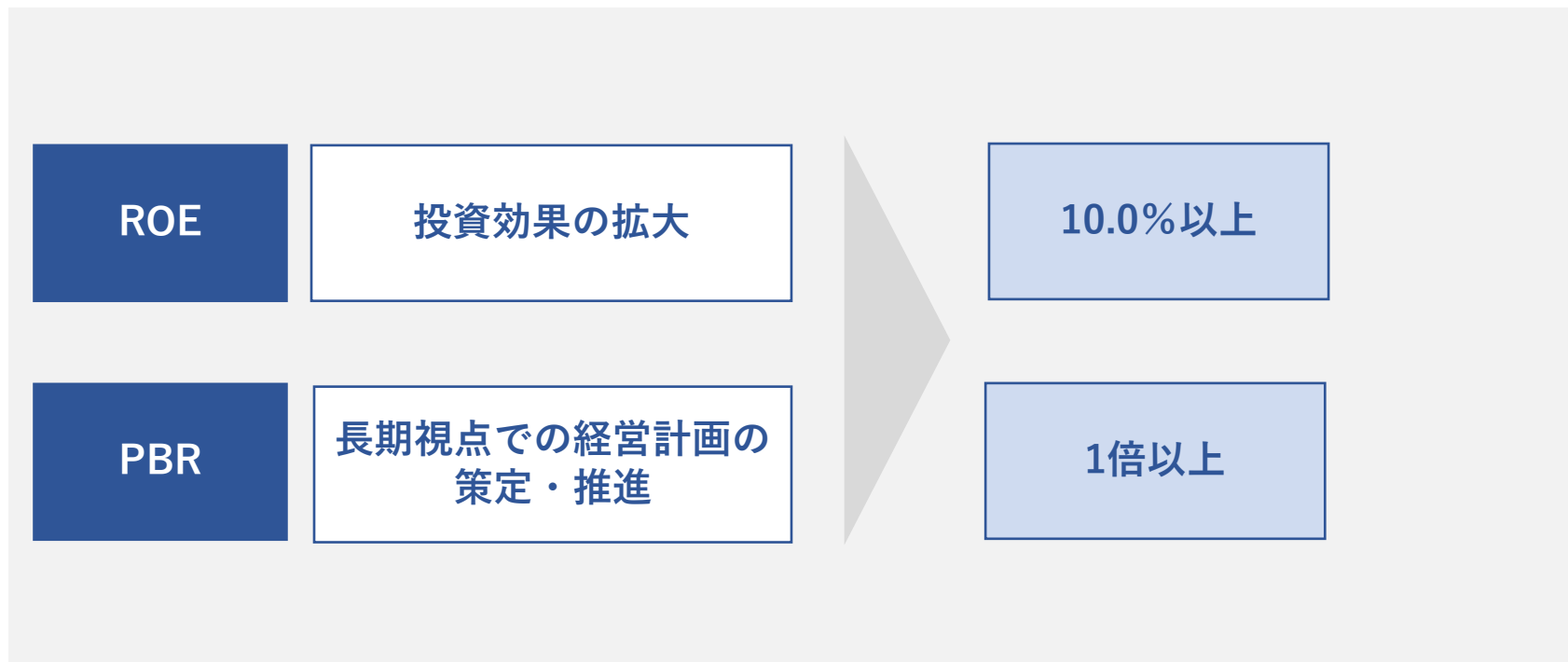


### 現預金の推移



## 方針

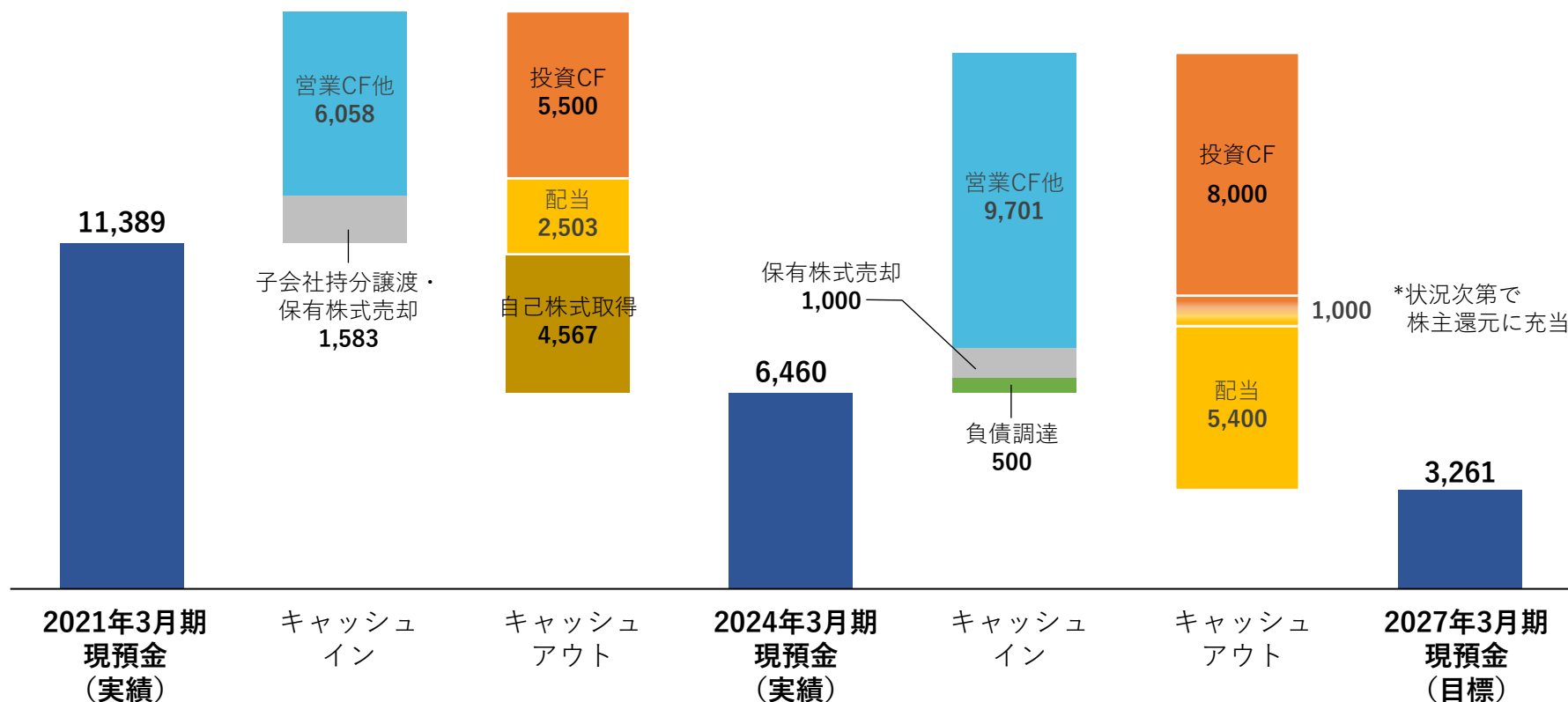
## 目標



第二次中期経営計画および2030年ビジョンとの連動により、  
持続的な企業価値向上に努める。

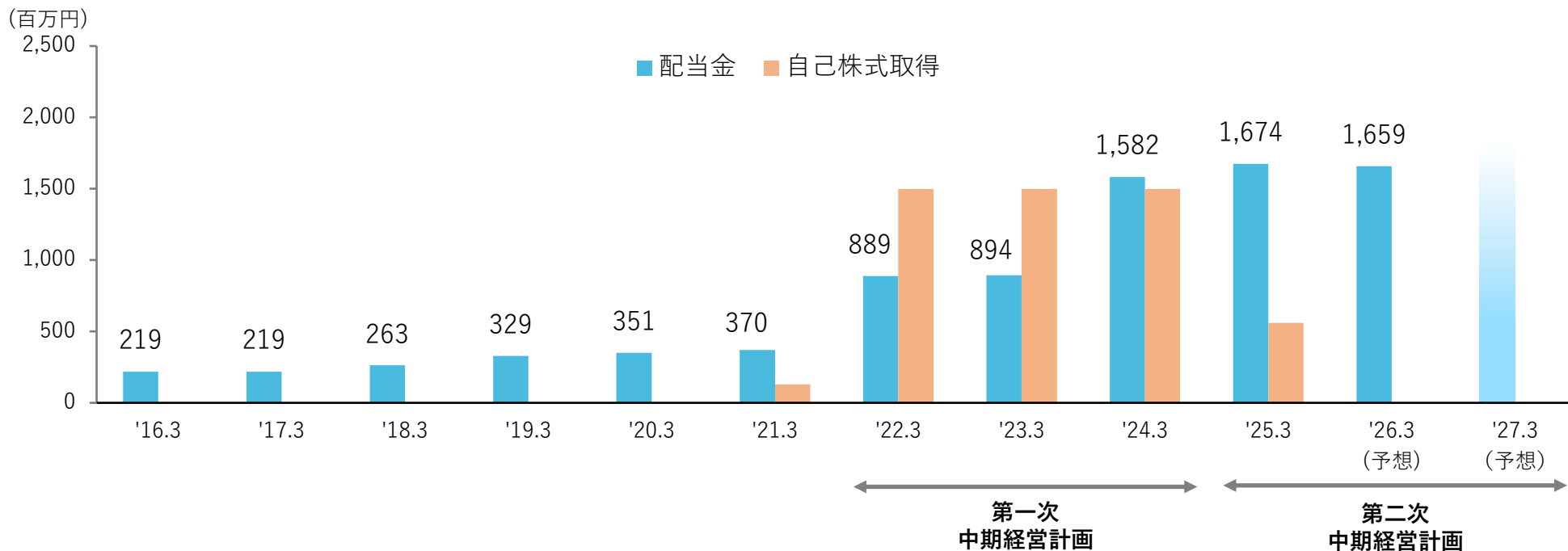
- 最適な資本構成とするため、資本コストを意識し、有利子負債を機動的に活用する。
- 株主還元については、第二次中計期間中は配当による還元を重視して、連結配当性向60%あるいは1株当たり配当金85円のいずれか高い方を実施。
- M&Aについては、継続的に投資機会をうかがい、企業価値向上に資する案件に関しては積極的に投資する。
- 第二次中計の2年目も順調に進捗しており、方針に変更はなし。

(百万円)



第二次中計期間中は配当による還元を重視して、  
**連結配当性向 60%あるいは1株当たり85円のいずれか高い方を実施する。**  
 自己株式取得は、財務状況等を総合的に勘案し、実施を検討する。

## 配当金および自己株式取得額



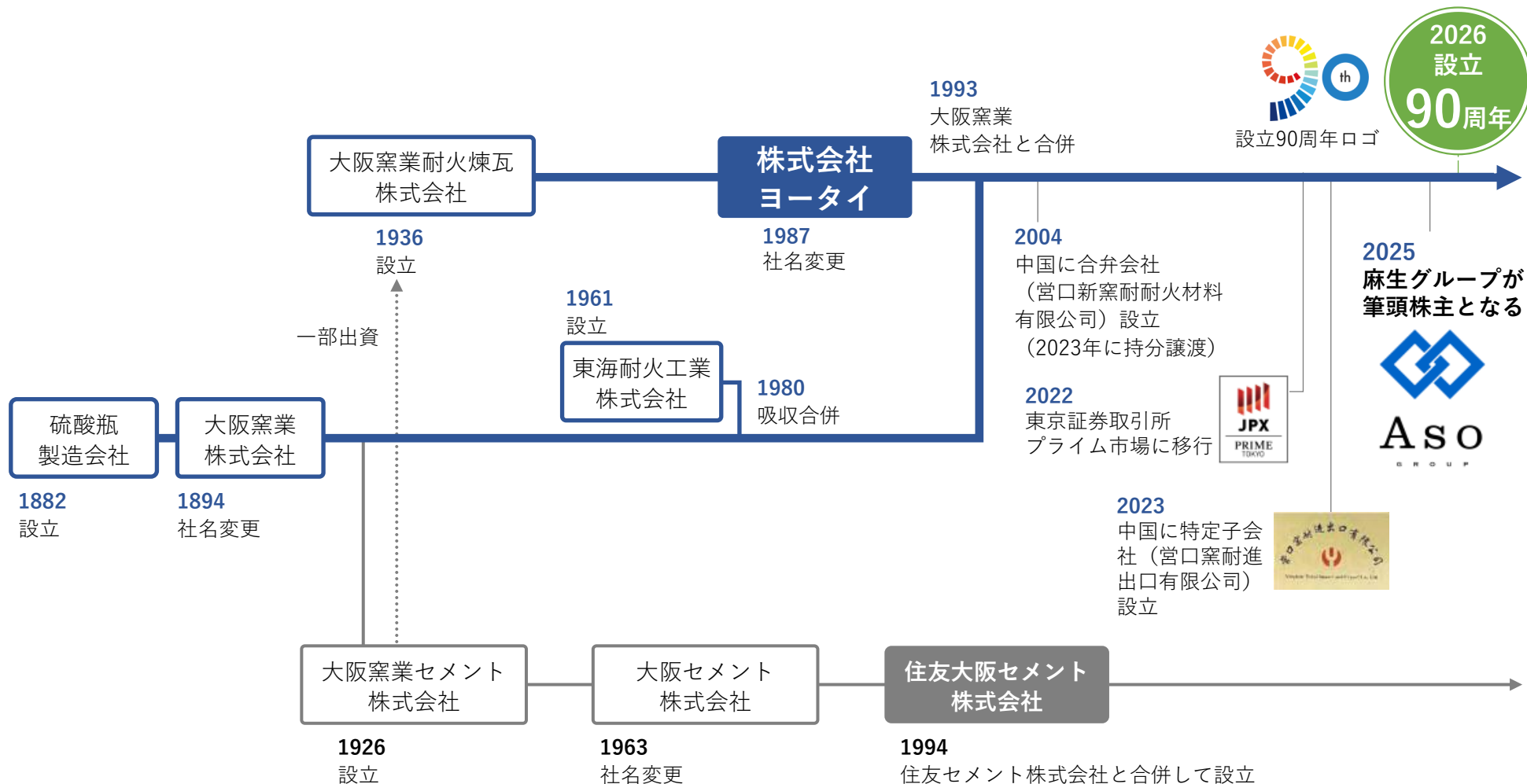
	16.3	17.3	18.3	19.3	20.3	21.3	22.3	23.3	24.3	25.3	26.3	27.3
1株当たり配当金 (円)	10.0	10.0	12.0	15.0	16.0	17.0	43.0	45.0	85.0	90.0	90.0	90.0
連結配当性向	23.5%	16.0%	10.1%	9.1%	12.6%	20.1%	30.4%	30.5%	41.4%	63.5%	67.0%	63.8%

# Appendix

## 耐火物で未来を創造

商号	株式会社ヨータイ（英訳名 YOTAI REFRACTORIES CO., LTD.）
設立	1936年（昭和11年）8月
本社所在地	〒597-0093 大阪府貝塚市二色中町8番1
従業員数	538名（2026年3月31日現在）
資本金	26億54百万円（2025年3月31日現在）
事業内容	耐火物・ニューセラミックスの製造販売および関連エンジニアリング事業
企業理念	私たちヨータイグループは、 永年に亘る耐火物製造技術の歴史と経験を後世に継承しつつ、 ヨータイ独自の技術を活かして、 革新する時代に即した新しい技術と製品を創出し、 顧客の満足度を高めるとともに、 社会に貢献する誠実な企業を目指します。

## 鉄鋼、非鉄、セメント、ガラス、焼却炉などの基礎産業とともに発展



特定の系列に属さない

## 独立系

多業種での確固たる地位



誠実かつ機動的な顧客対応

特定の業種の動向に  
影響されにくい事業構造

企業文化に裏付けされた

## 徹底したコストマネジメント

内製化の追求



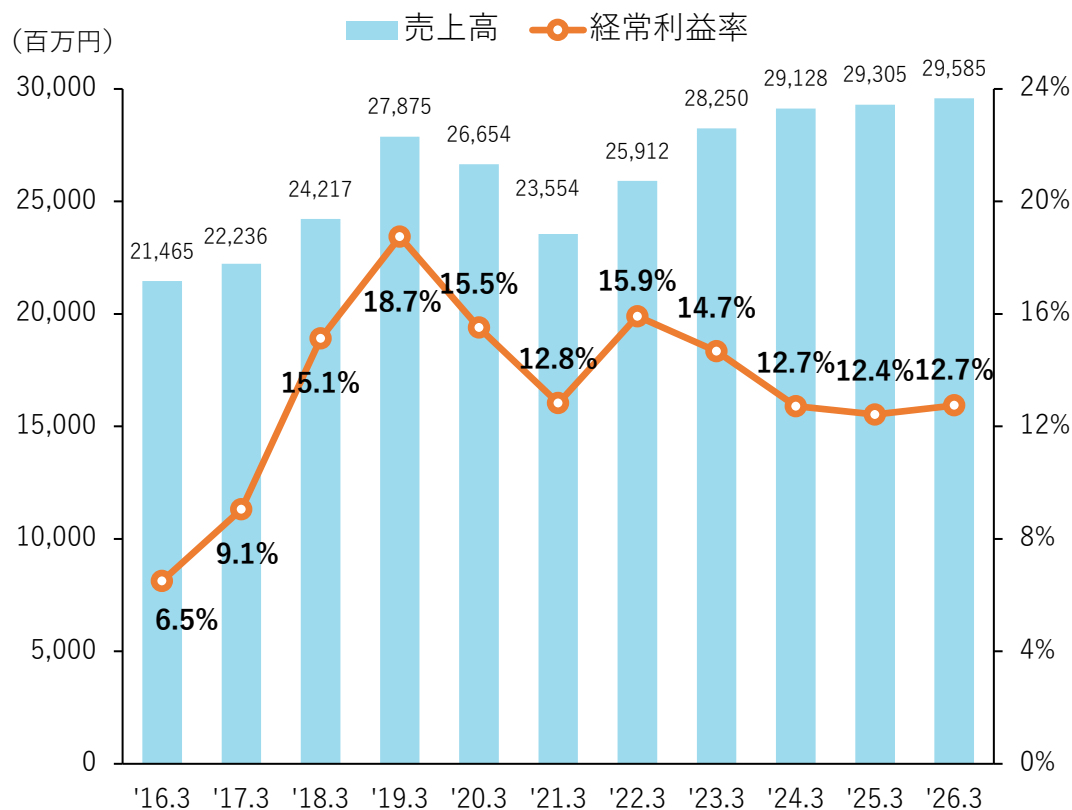
技術営業・多能工

業界トップクラスの収益性

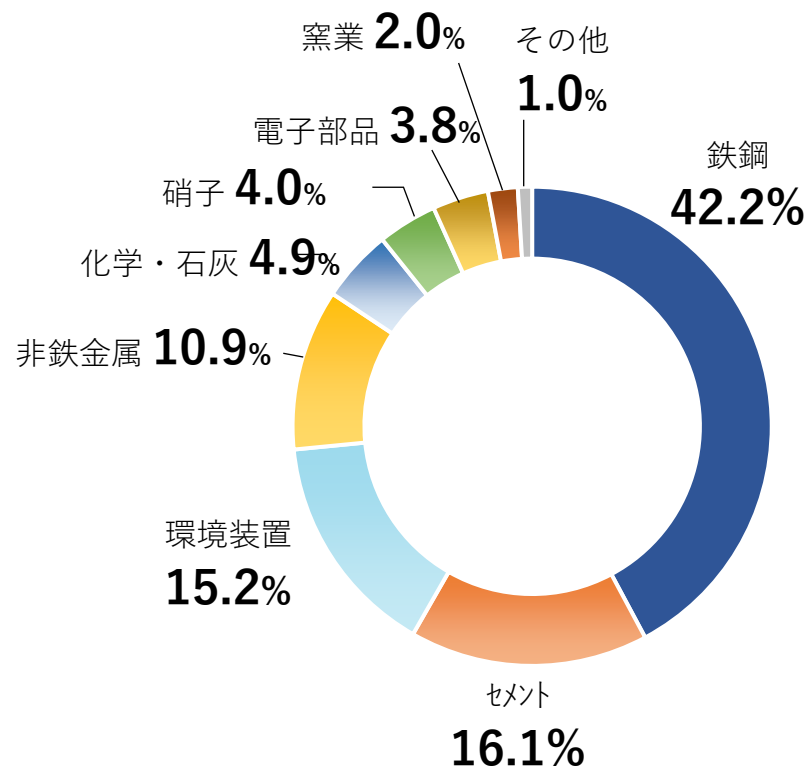
持続的な利益成長を実現

## 特定の業界の好不況の影響を受けず持続的に成長

■ 売上高・経常利益率の推移  
【連結】

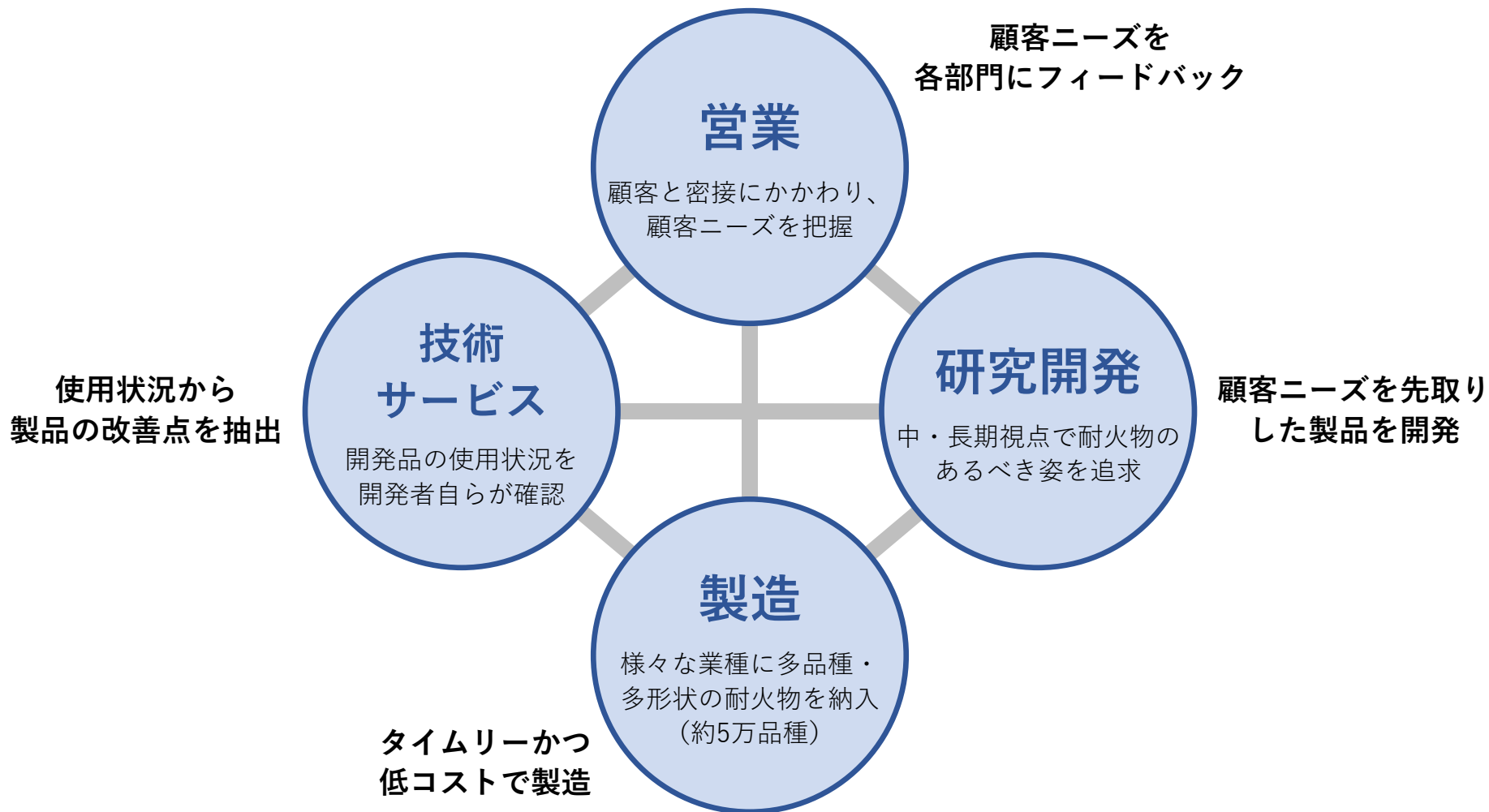


2026年3月期の業種別売上実績 (金額比)  
【連結】



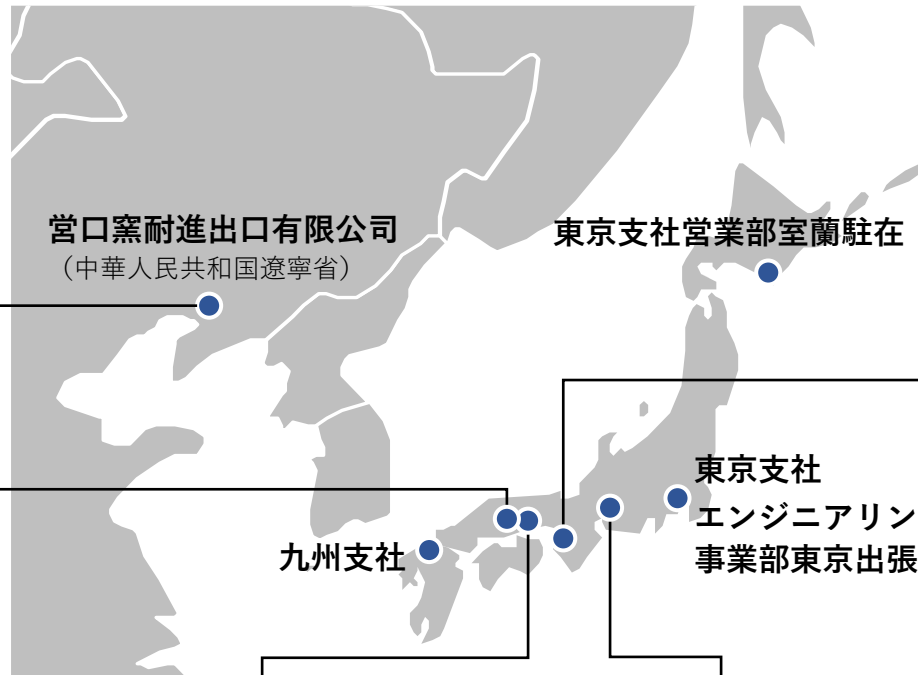
※前回より、決算調整後の業種別売上数値に変更しております。

「営業」「研究開発」「製造」「技術サービス」が一体となって価値を提供





營口窯耐進出口有限公司  
(中華人民共和国遼寧省)



東京支社営業部室蘭駐在

九州支社

東京支社  
エンジニアリング  
事業部東京出張所



吉永工場



吉永工場第二製造所



岡山支社 日生工場  
技術研究所  
エンジニアリング事業部



名古屋支社  
瑞浪工場 (土岐製造所)



本社



貝塚工場 新材料研究所  
エンジニアリング事業部  
貝塚出張所

※ 2025年6月 日生工場と吉永工場を統括する組織として「岡山事業所」を設置

※ 2026年4月 貝塚工場と瑞浪工場を統括する組織として「関西・中京事業所」を設置

## 分類

## 品種

## 主な用途

### 定形耐火物

ブロック状やプレート状など種々の形を持つ耐火物。成長分野である電子部品業界で使用される耐火物の多くは定形耐火物です。



スピネル

セメント

マグ・カーボン

高炉・電炉

アルマグカーボン

電炉

粘土質

汎用

高アルミナ

汎用

その他

汎用

定形

### 不定形耐火物

粉体状や練り土状の耐火物。粉体状製品は現場で水と混ぜ合わせて流し込んだり、吹き付けたりして使用します。練り土状製品は押し付けたり、叩き込んだりして使用します。



吹き付け施工例

キャスト

鉄鋼・セメント・

環境装置・汎用

スタンプ材、吹付材

鉄鋼・汎用

モルタル

汎用

その他

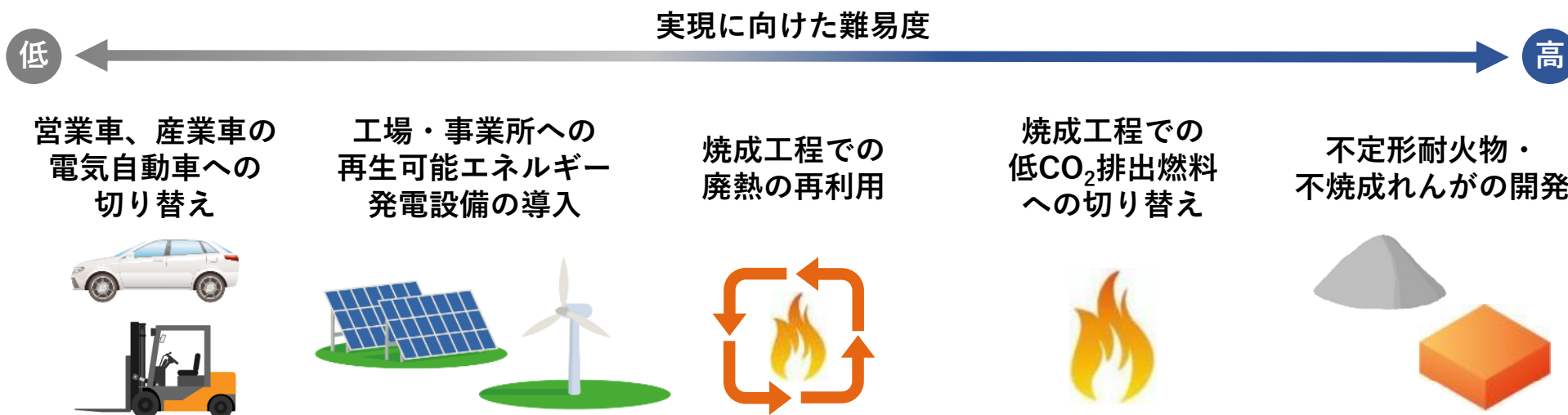
不定形

## 難易度が高いテーマについても実現に向けた検討を進める

### 定形耐火物の製造プロセス



### 具体的な検討テーマ



投資家、株主の皆様をはじめとした全てのステークホルダーの方々に  
当社の事業内容と企業価値向上の取り組みをわかりやすくお伝えしています



2025年版



2022年版



2023年版



2024年版

<https://www.yotai.co.jp/library.html>

ヨータイ 統合報告書

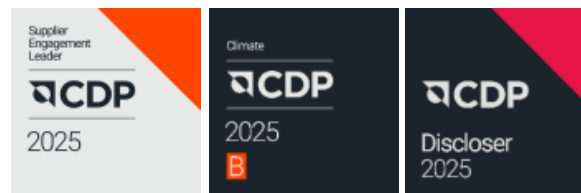
検索



当社の取組みは、国内外の様々な評価機関から評価をいただいています。

## 「CDP」気候変動レポート2024・2025年2年連続で「B」スコアを獲得

2024年・2025年2年連続：「サプライヤーエンゲージメントリーダー」選出  
2025年：水セキュリティ分野「B-」スコア取得



## 経済産業省が定める「DX認定」を取得

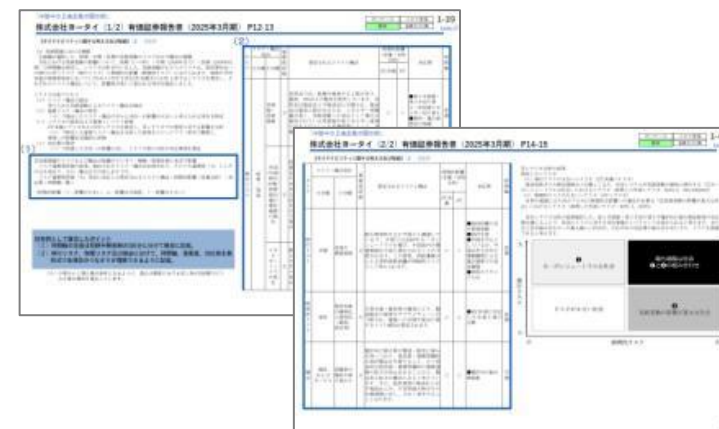


## 健康経営優良法人2026 (大規模法人部門) に認定

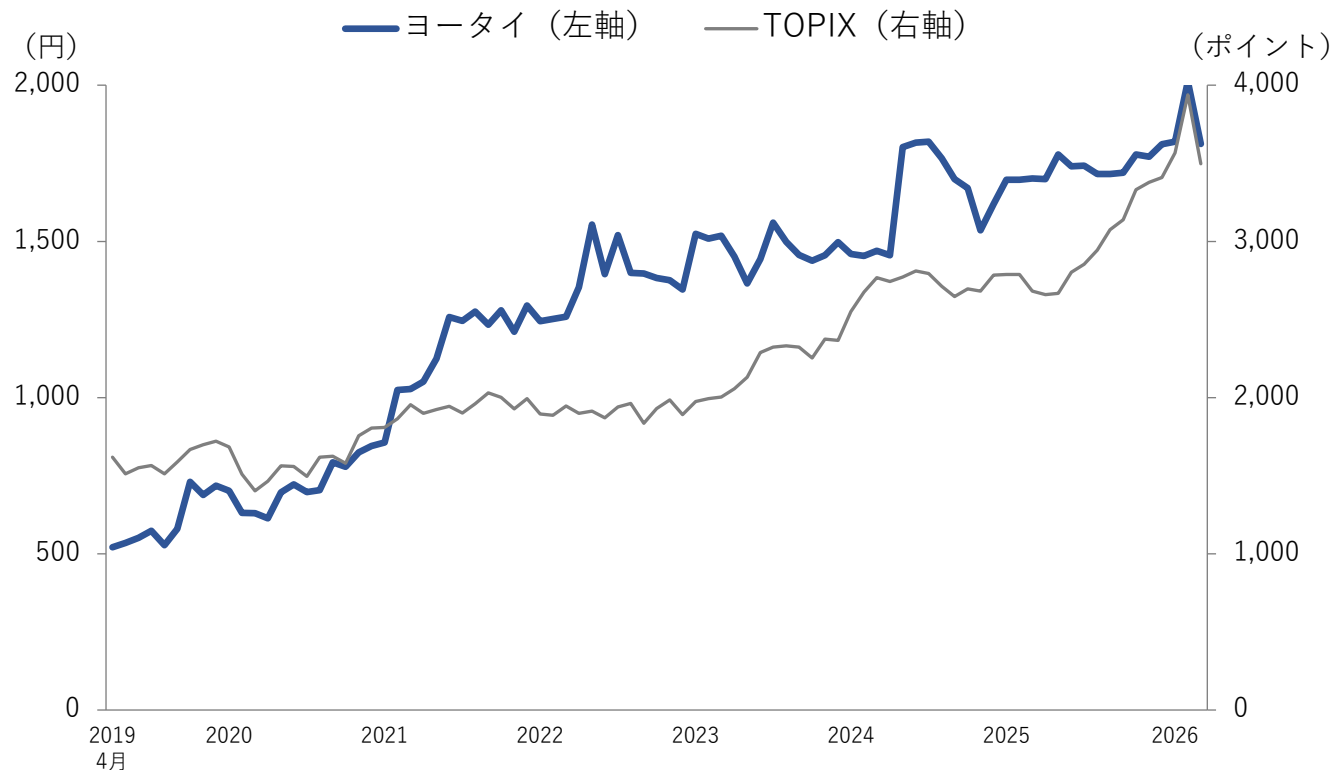


## 金融庁のサステナビリティ情報開示の好事例集に掲載

記述情報の開示の好事例集 2025



## 東証プライム：5357



2026年3月31日現在

株価

1,812円

予想配当利回り

4.97%

予想PER

13.5倍

実績PBR

0.97倍

お問い合わせ先

株式会社ヨータイ 業務部

住所 〒597-0093 大阪府貝塚市二色中町8番1

TEL 072-430-2100

この資料に掲載している情報の一部には、将来の業績に関する記述が含まれています。  
こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。  
将来の業績は環境の変化などにより、実際の結果と異なる可能性があることにご留意ください。